

構成員からの事前意見（とりまとめ）

資料 2

No.	ぐま循環器病対策シームレス・プロジェクトについて	本県の循環器病対策について
1	<p>「ぐんまちゃんの脳卒中ノート」や「心不全健康管理手帳」、など、シームレスな病棟連携・病診連携の促進に有用なデバイスはあるものの、一部の医療機関のみでの運用に留まっている印象がある。また、患者や家族の理解が十分でないまま急性期病院を退院となってしまう場合も多く、かかりつけ医においても外来診察時に利用状況の確認や指導を行う余裕が無いのが現状である。啓発活動が必要ではあるが、同時に県内の病院・施設における認知度や各施設が抱えている問題点を把握する必要もあるものと考えます。</p>	<p>・一次予防指導のさらなる普及が必要であると考えます。特に人間ドックや特定健診を積極的に受けない一定の層に対する介入が必要である。生活の欧米化に伴い、子育て世代・働き世代である若年層でも循環器病に罹患するリスクが上がっており、啓発活動や指導体制の充実が求められると考えます。</p> <p>・循環器疾患患者に対する緩和ケアの必要性は非常に高いが、緩和ケアチームのある医療施設は限られている。緩和ケアチームを持たない医療機関や施設においても介入できる群馬県認定の緩和ケアチームなどが制度として認められると良いと思います（個人情報の取り扱いや算定を考えると難しいかとは思いますが）。</p>
2	<p>行政、医療、介護、地域などが協働しておこなう有意義なプロジェクトだと考えます。すべての県民が発症予防、再発予防、増悪予防を図ることが重要であり1次予防～3次予防までの予防的な思考のもとで一貫した取り組みを行えるかが課題だと考えます。</p>	<p>循環器予防のために情報の提供、知識や手段の普及啓発を多面的におこなう必要があると思います。</p> <p>様々な情報のあふれる中で関連団体から病気や健康増進に関するパンフレットや資料が発行されています。情報を集積して県民に情報提供する、1つに集約された生活習慣病、循環器病、服薬指導、栄養指導、禁煙指導、運動療法、生活指導など多面的かつ包括的なパンフレットや手帳を作成してはいかがでしょうか。</p> <p>また、疾病者の役割の獲得も重要な課題と考えます。個人や環境に応じて復職に加え、地域や家庭で役割を持つことを推進することも有益だと考えます。</p>
3	<p>失語症などの循環器病の後遺症を有する方への支援が施策として挙げられており、失語症・高次脳機能障害の当事者と関わる言語聴覚士としても積極的にご協力できればと考えます。</p>	<p>循環器系の疾患が死亡原因の1位であるため、やはり予防・啓発に重点が置かれるべきと考えます。</p>
4	-	<p>疾患に付随する点について、生活習慣も原因となる疾患としては以下の社会的背景のある患者が目立つ印象を受ける。</p> <p>例えば、「頼れる身寄りのいない方」。詳細としては、「単身生活者」「家族・親族と疎遠／家族がいても非協力的」。年代としては「50～60代」の方が目立つ。生活保護受給者よりも、生活保護受給額ボーダーライン上の非受給者が多い印象を受ける。問題点として、「認知面の低下や意識障害を呈している場合に意思決定を行う相談者がいない」「条件によっては介護保険利用ができない」「このような背景の方を対象とした公的な支援機関がない」「入院に必要な物品の用意や金銭管理を行う術や公的な相談窓口や仕組みがない」</p> <p>その他について、</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活面や習慣の改善を図るうえでは、介護保険サービスだけでは十分な支援が行き届かない 高次脳機能障害の相談支援機関の数が少ない 稀にいる10代の患者の相談先や転院受入先があまりない
5	<p>循環器病はがんに次ぐ死亡原因であり、要介護者となる原因や医療費が高額となるなど社会に与える影響が大きいという事が世間の方に伝わっていないのではないかとと思われる。いまの現状を広くたくさんの方に知っていただき、こういった対策を行っていることを世の中にどんどんアピールすることが重要ではないかと思われる。</p>	<p>・循環器内科の医師で往診できる方が少なく、往診医がなかなか決まらない。</p> <p>・高崎市では定期巡回サービスを利用する方は市町村の配食サービスの申請ができないため、循環器疾患のある方の配食利用ができないため困っている。</p> <p>・経済的に困窮されている方は生活費が優先になり、医療や介護サービスを削減したり、受けない方もいる。</p> <p>・心不全の方は疲労感・倦怠感が強く、リハビリに対して消極的な面があります。リハビリのイメージが機能訓練の光景をイメージする方が多く、介入が進まない側面がある。</p> <p>・クリニックや診療所では待ち時間が少ないが、大きい病院だと待ち時間が長く疲れてしまうため利用者様が受信をしたがらない傾向にある。また、本人の身体状態が低下していると介護タクシーを呼んで受診することになり、介護タクシーの料金が高く経済的な負担が大きい。</p> <p>・家族が県外に住んでいたり、高齢者夫婦や独居高齢者の場合は受診の付き添いが必要になり、付き添いできる方がいない場合は担当のケアマネが受診の付き添いを行うこともあり、負担になっている。</p> <p>・新型コロナウイルスの影響で陽性者や濃厚接触と認定された方は医療機関や介護保険サービス事業所の受け入れを拒否される事があり、循環器疾患の利用者様または御家族が陽性になったり濃厚接触の認定を受けた場合は数日間サービスが入らなくなってしまう。</p> <p>・自然災害や感染症対策も議論することが必要ではないかと思われる。</p>

No.	ぐんま循環器病対策シームレス・プロジェクトについて	本県の循環器病対策について
6	<p>・発症予防のための保健事業等の位置付けについては、どのように考えていますでしょうか。発症を未然に防ぐための教育や啓発も重要と考えます。</p> <p>・発症後のサポートを一体的に実施するためには、急性期から回復期、慢性期、在宅まで対応できる多職種連携を含めた医療連携体制の構築のほか、その後の介護、福祉サービスとの連携体制の構築も重要と考えます。</p>	<p>・近年は、医療技術の進歩により、心疾患、脳血管疾患の死亡率は低下傾向にあります。患者にとっては、後遺症を抱える例が多く、QOLの低下や介護をする家族の負担等が課題と考えます。狭心症や心筋梗塞などの心疾患、脳梗塞やくも膜下出血などの脳血管疾患は、突然発作が起こり、それまでは自覚症状がほとんどないことも多く、原因である動脈硬化を予防することが極めて重要です。動脈硬化については、若年化も進んでいて、30代から40代の心臓病、脳卒中の患者が増えていることも課題といえます。こうしたことから、若年者に対して、健診の重要性を啓発し、健診受診率を向上させることが必要であると考えます。</p> <p>・同様に、血糖値、血圧の管理についても早くから意識してもらうための対策も必要であると思います。</p> <p>・G-WALKに疾患対策別の運動メニュー等の紹介ページがあると良いと思います。</p>
7	<p>居住地域における循環器医療体制の格差</p>	<p>群馬県の特徴として都市部と山間部が混在することが挙げられます。その居住地域によって、提供される医療レベルに差があることが問題だと思います。さらに、今後医師数が増えることも考えにくいため、この傾向はさらに顕著になることが容易に予想できます。</p>
8	<p>計画の推進にあたっては地域格差を慎重に見極め、対策を講じることが必要ではないでしょうか。本文13ページからも地域差がうかがわれます。市町村はそれぞれ健康増進計画に基づき事業展開をしておりますので、県全体としての目標を定めるとともに保健福祉事務所単位で課題分析及び取組が検討できると良いと思います。</p>	<p>QOLの維持向上及び健康寿命の延伸のために、本県における循環器病の対策はとて重要だと認識しています。</p> <p>行政だけではなく他機関で取り組む必要を痛感しています。</p>
9	<p>第4章 個別施策</p> <p>1- (2) 本県独自のデータ収集体制の構築を検討とあるが、具体的にどのように対応するのでしょうか。（大量のデータベースの管理はどうするのか）</p> <p>2-循環器病の予防や正しい知識の啓発とあるが、若い世代に向けて小中学校で命の教育を盛り込み啓発してはどうでしょう。</p> <p>3- (10) 移行期医療体制の整備とは、移行期支援センター等の立ち上げを県が主導して設置を行うのでしょうか（他県では、移行期支援センターを設立しているところがあります）。</p>	<p>現在、心臓に疾患を抱えて生まれてくる子供は、100人に1人いるといわれています。</p> <p>医療技術が進み、この先天性心疾患児たちは、年間約1万人が成人を迎えられるほどになりました。この子供たちが成人となり移行期支援を受け、就職し、家庭を持ち地域社会に溶け込み、幸せになってもほしいと私は思っております。そのためには、自分の病気を理解し、周りの人々にも病気を理解してもらい、少しの配慮をもらうことで、健常者と同等の就労ができ、働いて経済的にも自立し、長く地域に住み続けることができると思っております。</p> <p>今回のぐんま循環器病対策シームレス・プロジェクトの概要を拝見して思うことは、P：計画、D：実行、C：評価、A：評価の中で、計画はできていて、実行計画、取り組むべき施策もできています。しかし、評価については、ロジックモデルを活用し、次期計画の策定となっています。一般企業では、掛かった費用に見合った検証も必要です。（費用対効果）それと、監査も必要だと思います。改善のための処置をとるときに、パフォーマンスの分析及びマネージメントレビューからの結果を考慮することが望ましいと思います。</p> <p>監査を行い、不適合及び是正処置を行い、継続的改善を行い向上させることが必要だと思います。</p>